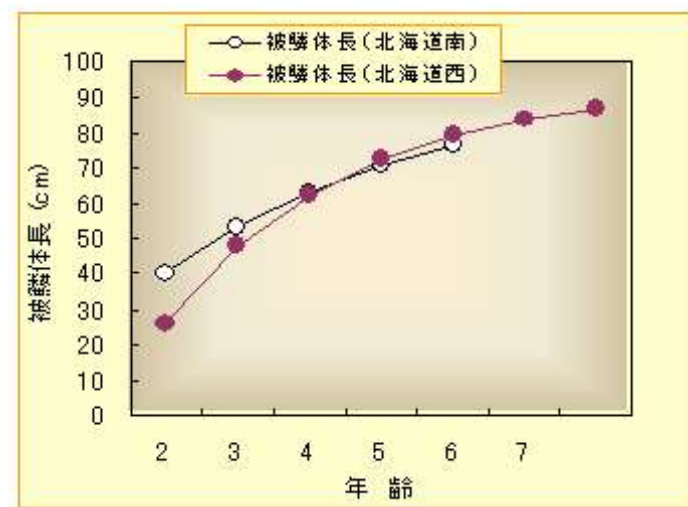


マダラ *Gadus macrocephalus*
オホーツク・北海道南・北海道西 担当：北海道区水産研究所



生物学特性

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 3歳
- 産卵期・産卵場： 冬季（12～3月）、津軽海峡の北海道側と陸奥湾、噴火湾、礼文堆と武蔵堆，十勝～根室地方の沿岸など
- 索餌期・索餌場： 不明
- 食性： 幼稚魚期には、カイアシ類などの小型プランクトン、底性生活に入ってから魚類、甲殻類、イカ類、貝類など
- 捕食者： 不明



漁業の特徴

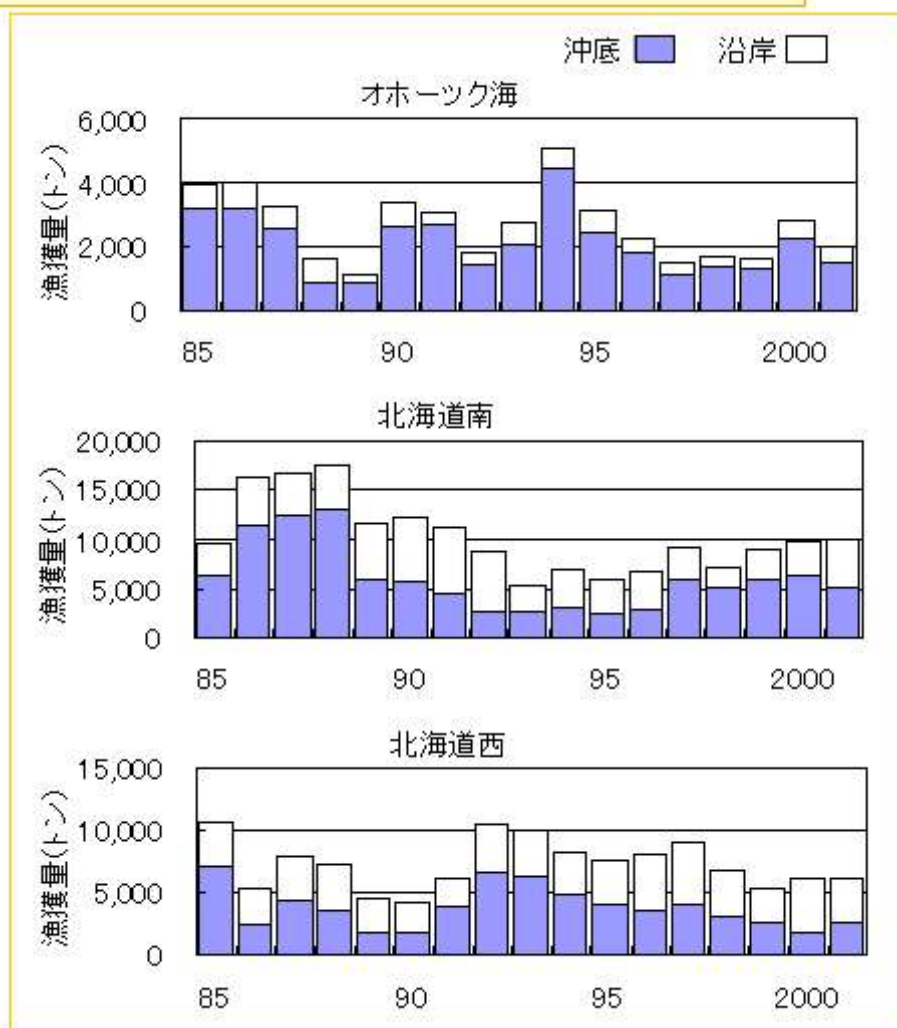
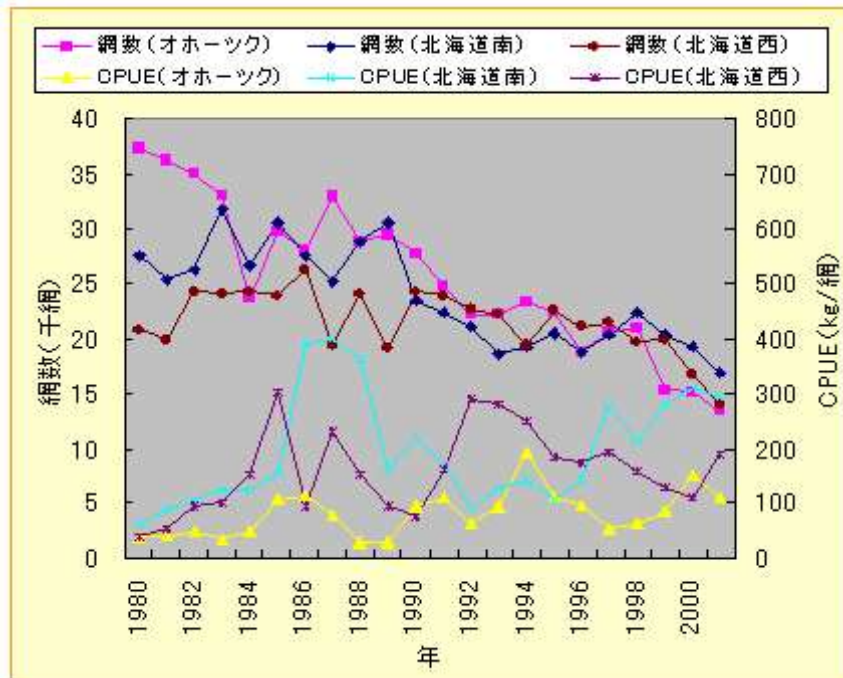
マダラは、沖合底びき網（沖底）、刺し網、はえなわ、および定置網ほか、多くの漁業によって北海道周辺の全域で漁獲されている。ほぼ周年漁獲があるが、主漁期は冬季である。

漁獲の動向

オホーツク海では、漁獲の大部分は沖底によってあげられている。漁獲量は北海道の他の2海域に比べれば小さいが、1985年以降の漁獲の相対的な変動幅は、3海域の中で最も大きい。2001年の漁獲量は、沖底1,474トン、沿岸漁業555トンの合計2,028トンであった。

北海道南海域では、沖底と沿岸漁業での漁獲量の比率が時期によって異なっており、漁獲量が増加傾向を示す時期には沖底の漁獲量の比率が大きくなっている。2001年の漁獲量は、沖底5,138トン、沿岸漁業4,763トンの合計9,900トンであった。

北海道西海域でも沿岸漁業と沖底での漁獲量の比率は時期によって異なるが、沿岸漁業による漁獲量が比較的安定しており、沖底による漁獲量の変動幅が大きい。2001年の漁獲量は沖底2,632トン、沿岸漁業3,537トンの合計6,169トンであった。



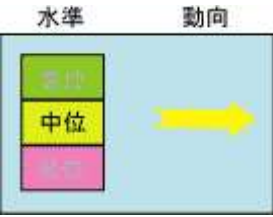
資源評価法

マダラを漁獲する漁業種類は多く、漁業の動向把握は難しい。北海道全体としてCPUEに関する情報が収集されているのは、沖底漁業のみである。海域によって沖底と沿岸漁業での漁獲量の比率が時期によって変化しているために、沖底のCPUEをそのまま資源量の指標としては利用できない。このため、全体の漁獲量を主要な情報とし、それに沖底のCPUEを合わせて資源の状態を判断した。

資源状態

1985年以降の漁獲量と沖底のCPUEからみて、オホーツク海では水準は中位で増加の傾

向にある。北海道南海域では、漁獲量からみて、資源は中位水準で横ばい状態にある。北海道西海域では、漁獲量から見て、資源は中位水準で減少傾向にあると見られる。このように北海道周辺の3つの海域に分布するマダラの資源状態はどれも中位水準にあると見られる。また、海域ごとに増減の傾向が異なるが、増減の幅は小さく全体で見ると横ばいの傾向にあると見られる。



管理方策

資源水準は中位で資源動向は全体として横這いと判断されるため、現在の資源水準を向上させるためには漁獲圧を減じる必要がある。このため、過去3年間の平均漁獲量に0.8を乗じたものをABClimit、さらに安全率0.8を乗じたものをABCtargetとした。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.8Cave 3-yr	14,000	—	—
A B C target	0.8ABC limit	11,200	—	—

資源評価のまとめ

- 全体の漁獲量を主要な情報とし、それに沖底のCPUEを合わせて資源の状態を判断
- 北海道周辺3海域のマダラの資源状態はどれも中位水準で、海域ごとに増減の傾向が異なるが、増減の幅は小さく全体で見ると横ばいの傾向

管理方策のまとめ

- 現在の資源水準を向上させるために漁獲圧力を減少させる
- 過去3年間の平均漁獲量を基礎にABC算定